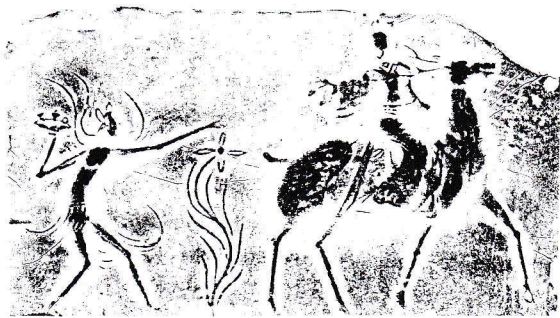




大分県書道

令和7年12月号 No. 426

「異文化に触れて」

昨年の八月から約一年間、カンボジアのシエムリアップという町で、九歳（当時）の孫娘と二人で暮らしました。孫娘はインターナショナルスクールに通いましたが、そこには、世界各国（二十数ヶ国）の子どもたちが通って来ていました。

孫娘が、その学校に通い始めてしばらくして、宿題がないことに気付きました。毎週、アプリで算数や理科、スペリングテストなどの学習内容が送られてきます。家でもやってみてください。とは書いてありますが、保護者のサインが必要なものと提出しなければならぬような類の宿題はありませんでした。国が違うからなのか今時なのかは分かりませんが、学習内容、給食の献立、日々の様子の写真などがアプリで届きます。しかも、そのアプリはそれぞれの保護者の母国語への翻訳機能

付きです。とても助けられました。

十月十日って何の日ですか。そう聞かれると私は「体育の日」と答えてしまいましたが。今は「スポーツの日」ですよ。孫娘の通う学校では十月十日は「国際世界メンタルヘルス」を祝う日でした。この日、子どもたちはメンタルヘルス啓発のための国際カラーである緑色のものを身につけて登校しました。

十一月の終わりの週は「いじめ防止週間」。この週はテーマに沿った服装で登校です。月曜日は敬意を示すために赤いものを身につけて。赤は活力や勇気を象徴し、他者への敬意を示すことが、リーダーシップを発揮する上で重要だということを学んだそうです。火曜日は「奇数靴下の日」。左右違う靴下を履いて行きました。共通点と違い、個性について考えたようです。ま

理事 佐藤 睦
(宵星)

た、ピカソにインスピレーションを得ての自画像を描いていました。頭の中で考えることも言葉で伝えることも大事で必要なことですが、子どもたちには分かりやすい目に見える表現で伝えることも有効です。左右違う靴下を履いて学校に行くなんて考えたこともありませんでしたが、なるほど！と感心しました。

学校の友達を見かけると、私はつい孫娘に「あの子はこの国の子？」と尋ねていました。が、毎回の「知らない」との返事に、今更ながら気付かされました。どこの国の出身かなんて関係ないのだと。

短い時間ではありましたが、子どもの受けている教育を通して、自他を大切にすること、大切にされる社会の中で生きていくということ、自分の人権意識を考えさせられた時間でした。